

和歌山県

2019 年（令和元年）

和歌山県チャレンジド工賃水準倍増事業

農福連携先進事例報告



2020 年（令和 2 年）3 月

一般社団法人 和歌山県セルフセンター



- 事業種別 A型
- 定員
- 主な障害種別 特になし(知的・精神など)
- 事業開始年
- 売り上げの推移(単位:千円)
 - H28年 15,024
 - H29年 18,673
 - H30年 26,698

生産活動の内容

使用している設備・機材・機械等

主は秋から冬にかけては大根の栽培をしているが、切り干し大根の原料が不足するので近隣の農家や作業所に委託して栽培してもらっている。

その他に栽培している品目は、米、大根、カブ、ブロッコリー、キャベツ、レタス、ネギ、ほうれん草、白菜、カリフラワー、高菜、里芋、赤かぶ、たまねぎ、茄子、枝豆、キュウリ、ピーマン、サツマイモ、カボチャ、インゲン、オクラ、ズッキーニ、セロリ、にらなど

農業以外には施設外就労として清掃をしている。

耕運機、大根洗浄機、スライサー、灯油式大型乾燥機等

事業実施のきっかけ、経緯

成功要因のポイント

上富田町の斡旋により耕作放棄地の除草作業を行う。

農地中間管理団体を通じて借用

JA産直市場よってつて(関西近辺25店舗)コーナン産直館 関西圏スーパーマーケット、全国福祉事業所への卸販売

理事長の考え方が積極的

大根の栽培から、切り干し大根の生産・販売までを考え、商談会などにも積極的に商品を出品し、チャンスをつかんできた。

また、利用者の特性を考え指導を進め、今ではどの利用者も積極的に農作業や加工・軽量・袋詰め作業に参加している。

賃金向上につながる取り組み

今後の展望

農業と農産物加工を行うことは障害者就労支援事業に向いている。障害の重い方も軽い方も何かしらの作業に携わることができる。屋内・屋外での作業を選択することが出来、作業のバリエーションがあり精神的にも自然の中で癒されながら楽しくのびのび就労できる。

機械設備をどう充実させていくかが課題。現在離農した方から機械を安く譲っていただいているが、古いと故障が多くメンテナンス等に費用がかさむので困っている。

現在300坪のハウスを建設しており、このハウスを有効活用することを考えている。



- 事業形態 B型
- 定員 30人
- 主な障害種別 精神の方が中心
- 事業開始年月日 2015年4月頃
- 売上げの推移(単位:千円)
- H28年 2,800
- H29年 3,400
- H30年 4,600

生産活動の内容

使用している設備・機材・機械等

以前は、キュウリの栽培をしていたが、現在ではミニトマトの栽培に切り替わっている。
金山寺味噌の製造販売なども行っている。

16aのビニールハウス整備を行い、ミニトマトの栽培を、栽培に詳しい農家の指導の下に作付けを増やしている。
ビニールハウスの隣の民家や倉庫を無償で借り、昼食場所、休憩場所として利用している。温度管理のための天井開閉装置やファン、遮光ネット。灌水のためのポンプ、動噴などが必要。

事業実施のきっかけ、経緯

成功要因のポイント

近隣農家からミニトマトの収穫に人手が足りないということから施設外就労を始めた。
それがきっかけとなって、独自のビニールハウスを建設しミニトマトの栽培を始めている。同じ年で、新規就農した協力者や自分の知識・考え方をおしりもなく教えてくれるベテラン農家さんに背中を押され、農業をしたいと思った。
専業で営農されている方の中には情報量や知識を多くもつ方もあり、大変刺激になる。

ミニトマトの特徴は、色が赤く収穫時期がわかりやすい。収穫時の重量も重くなく、収穫期間が長い。また露地栽培に比べ清潔な環境を作れるので利用者の方も参加しやすい。
収穫に手間がかかる分一般に営農している人も多くなく、市場価格が安定している。圃場や倉庫・休憩場所が一か所にまとまっているため、じっくりと農作業ができる。
まだまだ成功というところまで行っていないが、農家の支援もありビニールハウスでのミニトマトの栽培に取り組んでいる。農福連携で新たな取り組みがスタートした段階である。

賃金向上につながる取り組み

今後の展望

今まで金山寺味噌の製造や、近隣農家のミカンや八朔の収穫の支援を行ってきた。
ミニトマトの栽培の援農から自前のビニールハウス建設までようやくこぎつけた。
売上げも順調に伸びており、また、農業に参画しようという意欲的な男性職員が2年前から参加している。

ミニトマトの栽培期間は、うまく管理すれば終年を通じ収穫できる。
利用者の方も積極的に参加しており、障害者就業事業所としても最適な栽培品種である。
今後ロックウールを使った養液栽培を行おうと思ってる。



- 事業形態 A型
 - 定員 20人
 - 主な障害種別 特になし
 - 事業開始年 2014年4月頃
 - 売り上げの推移(単位:千円)
 - H28年 1,140 (3,064)
 - H29年 1,570 (3,778)
 - H30年 1,900 (4,331)
- ※()は、飲食事業も含む年間売上高

生産活動の内容

使用している設備・機材・機械等

大根、加工用トマト、唐辛子、玉葱、キウイなどの栽培
あんぽ柿、柑橘ピール、米菓などの加工をしている。
農協のコンテナ洗浄などがある。

【農産加工】
消毒殺菌槽、柿皮むき機・3台、柿ヘタ取り機3台、食品乾燥機3台、真空包装機、回転釜50ℓ、野菜裁断機、ハンマーミル(粉碎機)、金属探知機、回転ドラム、パフマシーン等
【農業】
トラクター23馬力/28馬力、トラック1.5t、軽トラ2台、肥料散布機、ハンマーモア、耕運機、玉葱定植機&収穫、運搬機、消毒動噴、草刈り機など

事業実施のきっかけ、経緯

成功要因のポイント

現管理者はヨーロッパなどで注目をあびているソーシャルファーム(社会的企業)を目指し、地域の基幹産業である農業の問題を障害のある人たちの働く場づくり(A型)で解決していくことにチャレンジしてきた。
現職場にくるまでは、農業経験は一切なくゼロからのスタート。農業を通した生命の在り方とそこに携わる人たちとの人間力に魅了された。
また、法人で1990年代後半から紀ノ川農協との連携が行われていた。

事業所が紀ノ川農協内に在ることから同農協を主に地元農業団体(那賀地方有機推進協議会、NPO法人那賀有機農業実践グループ、紀の川市環境保全型農業グループ)と連携が容易に図れ農業者との関係構築が円滑できている。

賃金向上につながる取り組み

今後の展望

市場の農産物価格が安い(農業従事者の実労働時間から考えると最賃を下回る計算になる)。農業という産業自体が低賃金であり価格構造上に課題がある中で、その分野で障害のある人たちのお給料を向上していくには課題が多い。農産加工などは天候などにも左右されることもなく、価格変動も大きくなく福祉の課題を解決していく可能性が高いと思う。
飲食店も運営していることから市場ニーズも把握できモノづくりに活かせる。その他、米の受託加工なども全国から依頼をうけており事業所にある機器を自社以外の製品にも最大限活用している。

農業という一次産業で栽培したものに農産加工でどのような付加価値をつけていくか現在、研究中である。
6次産業プランナーからの紹介でお米を加工する機器を企業から借り受けており、お米を使ったパフ(α米粉)で、6次産業に挑戦する。
商品デザインや販路を含め昨年のアドバイザー事業で支援をいただいた。



- 事業形態 B型
- 定員 20人
- 主な障害種別 知的障害・精神障害・発達障害
- 事業開始年 2015年4月
- 売り上げの推移(単位:千円)
 - H28年 7,000
 - H29年 9,000
 - H30年 10,000

生産活動の内容

使用している設備・機材・機械等

苗:花苗(パンジー、ビオラ、マリーゴールドなど)
野菜苗(トマト、ナス、キュウリなどの夏野菜)
鷹の爪、シシトウ、ピーマン、加工用トマト、米(もち米)、タマネギ、ダイコン、ハクサイ、キャベツ、ブロッコリー、サツマイモ、トウモロコシ(爆裂種)、ほおずき(食用)など

耕運機・草刈り機・トラック
乾燥機・ポン菓子製造機・シーラー
大型冷蔵庫・大型冷凍庫

事業実施のきっかけ、経緯

成功要因のポイント

ネギ農家の方より、出荷用のネギの調整作業を受託(納品等は農家の方が全て実施)からスタート

農地1町は、全て借地
近隣の農家の方等との関わりの中で、使っていない畑等があるということで、直接農家の方とのやりとりにて借りている。

近隣農家の方に分からないことがあればその都度確認し、指導を受けている。場合によっては、JAの営農の方に来て頂いて指導を受けている。

近隣農家の方に、販売先やどんな農作物が売れるかなどのアドバイスをを受けている。

賃金向上につながる取り組み

今後の展望

農家の方から、また次の農家の方といった具合に、作業の依頼が増えていく。関係性が築ければ、農機具や農業に必要なものを貸して頂いたり、譲り受けることもある。
こういった地域とのつながりを大切にしながら工賃向上をめざしたい。

仕事を頂けるのはありがたいが、加工(OEM)等、一度に大量の加工が来たりするため、他の作業との調整等が難しい場合がある。ポン菓子の加工依頼(農家や農園)がたくさん来るが、こちらも、忙しい時に注文が重なることが度々あり、作業の調整が困難になることがある。

事業の柱を何にするか、もう一度職員で討議し、事業の集中で業務の高収益化を目指したい。そのための戦略を検討している。



- 事業形態 B型
- 定員 40人
- 主な障害種別 精神障害
- 事業開始年 2018年8月頃
- 売り上げの推移(単位:千円)
 - H28年 未記入
 - H29年 未記入
 - H30年 未記入

生産活動の内容

使用している設備・機材・機械等

黒にんにくやにんにくチップ、季節のジャム、梅干し、高菜の漬物の製造、販売

にんにくの種割り作業や収穫など
梅、高菜、生姜、なんたんみつ姫(サイパン芋)
今年度は、水稻の栽培を計画している

3トントラック、小型耕運機3台
草刈り機4台

事業実施のきっかけ、経緯

成功要因のポイント

農家さんからの働きかけがきっかけとなった。
規格外の品物がありそれをうまく加工する方法や、加工したものの、販売が出来なかったら収益にはつながらないのでそこはすごく難しい。
農作業するにはかかわってもらう人材が必要だが、現在の福祉の中では、なかなか人を雇えない状況はある。

まだ成功事例というわけではないが、地域の産業基盤が農業以外に考えられず、地域課題を解決することと事業所の将来を考えて農福連携にチャレンジしていきたい。
また、農家の高齢化が進む中で、地元自治体も注目している。

賃金向上につながる取り組み

今後の展望

農作業は、かなりしんどい作業であるが、メンバーさんがいきいきしてくる。また、支援と同じでしっかり支援(愛情)をかけてあげることで育ちも全く変わってくる。いろんなことが勉強になります。ただ、今の福祉の現状では、暑い中暑い時間帯に農作業を行い、休みを取らなくてはいけないので、休みの間、作物がほらくりとなる。なので職員が交代で対応していることもある

成功とまで入っていないが、JAとの連携が始まり、また、チャレンジドのアドバイザー事業で生姜の栽培などを計画しており、今後なんたんみつ姫やニンニク栽培などと合わせ、事業を進めていきたい。



- 事業形態 B型
- 定員 20人
- 主な障害種別 知的障害
- 事業開始年 2012年4月頃
- 売上げの推移(単位:千円)
- H28年 11,700
- H29年 16,273
- H30年 16,246

生産活動の内容

使用している設備・機材・機械等

有田郡有田町早月地区の過疎化で栽培できなくなったみかん畑を中心とした果樹栽培。現在5haの農地の管理、収穫、選果、出荷作業を行っている。

みかんジュース、八朔ジュース、ジャム各種、漬物などの農産加工も手掛けている。

トラック、モノレール、防除機械等
 資材としては、コンテナが大量に必要
 農産加工の設備⇒ジャム製造機
 搾汁器、滅菌消毒器、灌水システム、耕運機、乾燥機

事業実施のきっかけ、経緯

成功要因のポイント

法人役員の親類と近隣住民からの労働力不足、後継者難など地域が困っていることと、事業所が目指す農福連携の思いがうまくかみ合った。

技術指導は、近隣農家、JAなどからのアドバイスを受ける。

販売先

農総研を通じた関東、関西圏スーパーでの販売

有田圏域のイベント(主に福祉関係)での販売

関係団体への特注

B型事業所として短期間に平均工賃3万円を実現

短期間に平均工賃3万円を実現した背景には、地域の農村が抱える高齢化と後継者不足に正面から立ち向かい、実績を上げてきたこと。

福祉現場の職員的な発想ではなく、大胆に地域課題解消に立ち向かっていった結果である。

賃金向上につながる取り組み

今後の展望

温州みかん、八朔などの柑橘類を中心に生産から販売までを手掛け、それが大きな収益となっている。

ただ、みかんの収穫時期は限られているため、そのほかの作物も手掛け収益になるよう工夫している。

南高梅、ぶどう山椒

春野菜(豆類、ブロッコリーなど)

夏野菜(なす、きゅうり、シシトウなど)

秋冬野菜(白菜、イモ類など)

同法人内の作業所、カフェ&ベーカリーオリーブのパンの訪問販売